

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：地方道・環境課
担当課長名：吉崎 収

事業名	地域高規格道路 名古屋瀬戸道路 一般県道 日進瀬戸線		事業区分	地方道	事業主体	愛知県
起終点	自：愛知県日進市岩崎町 至：愛知県長久手町大字岩作			延長	4.0km	
事業概要	一般県道日進瀬戸線は、名古屋市と名古屋東部諸都市を結び、名古屋環状2号線、東名高速道路等と一体となって名古屋圏の自動車専用道路網を形成する名古屋瀬戸道路の一部である。本路線は、東名高速道路との接続により広域的な活動、交流を可能とし、人口が増加傾向にある名古屋東部地域の地域整備を支援し、地域の活性化に寄与する道路である。					
H11年度事業化	H10年度都市計画決定	H11年度用地着手	H11年度工事着手			
全体事業費	963億円	事業進捗率	64%	供用済延長	2.3km	
計画交通量	34,400台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 1.6	総費用 (残事業)/事業全体 217/968億円 (事業費：217/966億円 維持管理費：1.9/2.1億円)	総便益 (残事業)/事業全体 347/1,488億円 (走行時間短縮便益：337/1,362億円 走行経費減少便益：3.1/99億円 交通事故減少便益：6.3/27億円)	基準年 平成20年		
感度分析の結果	交通量変動(残事業)/事業全体：B/C = 2.7/1.4(交通量+10%)、B/C = 1.4/1.3(交通量-10%) 事業費変動(残事業)/事業全体：B/C = 1.8/1.6(事業費-10%)、B/C = 1.5/1.5(事業費+10%) 事業期間変動(残事業)/事業全体：B/C = 1.8/1.7(事業期間-20%)、B/C = 1.4/1.4(事業期間+20%)					
事業の効果等	・円滑なモビリティの確保（周辺道路における渋滞損失時間の削減が見込まれる） ・国土地域ネットワークの構築（H9.9 地域高規格道路の整備区間に指定 日進市～長久手町 L=4.0km） 他7項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	地元日進市より周辺道路の円滑な交通処理を図るため、早期整備促進の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	事業採択時から周辺環境の変化は特にないが、本路線が通過する日進市、長久手町は名古屋市のベッドタウンとしての役割を担っており、現在人口が急増している。また沿線周辺では愛知万博の理念と成果を引き継ぐ「愛・地球博記念公園」の整備を進められている。さらに次世代モノづくりの基盤技術を創造・発信する「知の拠点」づくりも進められている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成16年度までに事業区間4.0kmのうち日進JCTから長久手ICまでの2.3kmを供用しており、引き続き残る区間の用地買収、改良工事を推進し、事業の完了を目指す。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業区域内の未買収用地の一部について交渉が難航しており、多くの時間を要していることから事業が長期化している。今後も引き続き用地交渉を行うなど用地取得促進に努め、早期事業完了を目指す。					
施設の構造や工法の変更等	再生材の利用などを推進しコスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	事業の必要性、事業の進捗の見込み及びコスト縮減方策と代替案の観点から事業継続が妥当である。					
事業概要図	<p>位置図 事業箇所</p> <p>H10.3都計決定 6km</p> <p>事業区間 4.0km</p> <p>残事業区間 H10供用済区間</p> <p>1.7km 2.3km</p> <p>長久手町</p> <p>長久手IC</p> <p>日進JCT</p> <p>日進IC(仮称)</p> <p>名古屋</p> <p>豊田市</p> <p>東名高速道路</p> <p>名古屋瀬戸道路</p> <p>日進瀬戸線</p> <p>日進市</p> <p>豊田</p>					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。